2021年度 経営学研究科【結果】

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理田/課題/根拠データ	
(1)B'sVision2024の方針を踏まえた中長期目標検討および年次目標の設定 ①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 ②社会人に向けた効果的な広報の確立 ③学部との連携強化によるストレートマスターの確保	①カリキュラム改定検討準備委員会を設置し、学部と連携してビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改定の準備をし、FDのテーマにも取り上げて進めて来たが、今年度経営学部が急速大きな組織改編を行うこととなった。そのため、改めて学部の改編と連携する形でカリキュラム改定に取り組むこととした。 ②インターネットによる情報発信については、研究科のWebサイトページの情報更新から着手した。創設時の古くなった表現や修正が必要な部分に加え、修了生や現役院生の声や情報も追加して更新した。税務だけでなく、ビジネス・マネジメントの3コース合同の入試説明会を実施した。 ③感染状況の変化に対応するのが精一杯で、学部との連携が思う様には進まなかったが、会計や税務など国家資格に関係するキャリアや、飛び級についてなど早期からの意識向上を目指した説明会を実施した。内部特別選考試験についての情報をTeams及びB's Linkでも告知した。	80%	①大学院カリキュラム改訂が学部優先で延期となったのは、本研究科の専任教員が学部教員との兼担である以上、仕方のないことである。 ②入学者数20人台にすることができた。一方で、補欠合格制度を実施できなかったため、合格者数の減少を抑制できなかった。また、ビジネス・マネジメントの入試説明会を実施し、積極的な募集戦略の下地ができたことは評価できる。Covit-19の影響による北京語源大学からの志願者確保はできなかったのは、当該環境であるため仕方のないことといえる。 ③本格的な社会人ニーズに合わせたWebsite募集戦略に着手したのは前進と評価できる。	今年度入学者志願者数34名 昨年度 100% 合格者数22名 昨年度 130.4%(+3人) 入学者15人 辞退者数7人 今後安定した入学者を維持するためには、補欠合格者制度の仕組みを早急に構築しなければならない。	①カリキュラム改訂検討準備委員会を設置し、大学院カリキュラム改訂を必ず実施したい。 ②辞退者を減少させるために、出願時の演習教員を複数希望化を引き続き、実施したい。また、今後安定した入学者を維持するためには、補欠合格者制度の仕組みを早急に構築しなければならない。また、3つのマネジメントコースの合同入試説明会について対面方式、オンライン方式など組み合わせたい。実施回数を増やしたい。入試説明会を単に、相談だけではなく、講演会を組み合わせたい。③社会人ニーズに合わせたWebsiteでの情報提供、広報の強化を実現させたい。また、修了生のインタビューや就職についてなどの情報発信を実現させたい。④学部1年次生への説明会において、入学時より会計や税務など国家資格と関係するキャリアの説明、飛び級など早期から意識向上を目指した説明会を実施していきたい。また、学部と連動したカリキュラム改訂により、大学院のカリキュラムを3、4年次から履修できるモデルを提示したい。
(2)永久サポート大学を目指し、オンラインによる教員合同院生(修了生含)交流会を計画	永久サポート大学を目指し、オンラインによる教員合同院生(修了生含)交流会を実施した。	100%	2021年度は基本対面で、適宜教員と学生との相談で柔軟に授業方式を変更し、COVID-19下でも授業を予定どおり展開することができた。 ●大学院の研究科目についてはハイフレックス方式になった授業もあったが、全く問題なく対面と同様の教育が行えた。	100%	●大学院の授業方式は、教員と学生との相談のうえ、対面およびリモート授業を決定していた。院生のアンケート結果も非常に好評であったことは教員の努力の賜物と評価できる。
(3)教学に関する方針を踏まえ、FD研修会を実施	教学に関する方針を踏まえ、FD研修会を令和3年7月31日(土)にテーマ「カリキュラム改定について」で実施した。	100%	FDは、「カリキュラム改定について」という題目で2021年度に大学院のカリキュラム改訂を実施予定であるので、教員にとって有益な示唆となった。		教員側の視点だけでなく、学生や修了生から見た研究科の将来や、カリキュラムについてをテーマにFDを行いたい
(4)認証評価結果を踏まえ、 ①特定課題の審査基準を検討し、『経営研究科要覧』及びHP上において公表 ②適切な教員組織の編成(年齢、職位、専門領域等)と運営を検討	(4)認証評価結果を踏まえ、 ①特定課題の審査基準を検討し、『経営研究科要覧』及びHP上において公表した。 ②適切な教員組織の編成(年齢、職位、専門領域等)と運営の検討は、次期に繰り越すこととなった。	50%	(4)認証評価結果を踏まえ、 ①特定課題の審査基準を検討し、『経営研究科要覧』及びHP上において公表することができた。 ②適切な教員組織の編成(年齢、職位、専門領域等)と運営の検討は、次期に繰り越すこととなった。		
(5)授業満足度について2021年度指標としては、2020年度授業評価 4.9(5点満点)と同等数値を目指す	○2021年度授業評価(「授業に関するアンケート」の平均値)の結果は、前期アンケート(全科目平均値)4.64、後期アンケート結果は、全科目平均値4.84であった。前期は4.9に達成できなかったが、後期はほぼ同等数値といえる。2021年度修了時アンケート結果によると、大いに満足75%、まあ満足25%であった。	90%	2021年度はCovit-19禍であったけれども、前期後期ともに学生からの満足度は高く高評価であった。Covit-19禍であったからこそ、よりコミュニケーションをとりながら、相互理解を高めながら授業をすすめた結果ではないかと評価できる。		2021年度も対面、オンライン方式と学生と教員の相談のうえ授業を展開することになったが、学生ファーストで対応することにより、2022年度も教育の質向上に努めたい。

2022年度 経営学研究科

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
(1)B'sVision2024の方針を踏まえた中長期目標検討および年次目標の設定 ①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 ②永久サポート大学として社会人に向けた効果的な広報の確立 ③学部との連携強化によるストレートマスターの確保
(2)教学IRの視点からFD研修会の実施計画
(3)ストレス耐性を育む教員合同院生交流会を計画
(4)DPを踏まえ授業満足度2021年度授業評価 4.8(5点満点) 2022年度指標としては同等数値を目指す